

# 小倉山通信

平成27年11月20日  
No.29

## 3年生宿泊体験を終えて

11月18日(水)～19日(木)の1泊2日に、秋田市のユースパルを宿泊場所として行われた3年生の宿泊体験が、日程をすべて終えて、19日に無事に帰校しました。

4つの大学(秋田県立大学、ノースアジア大学、秋田大学、国際教養大学)の一つを個別に訪問した生徒たちは、口々に「大学の雰囲気があった」「学食は美味しかった」「図書館が広くて、ものすごかった」「自分が入学できない大学のように感じた」「この大学だったら入ってみたいと思った」などと感想を述べていました。

夕方、新屋高校の石井啓之(いしいひろゆき)先生に進路講話をしていただきました。国語の授業のようなスタイルで入って、評価が大事なこと、生徒同士ではコミュニケーションがとれるけれど、大人とのコミュニケーションをとれない生徒は厳しい、というお話をされました。大人の世界に入る心構えを厳格に教えていただきました。

2日目は、秋田県立美術館で、藤田嗣治の「秋田の行事」の本物を目にした感想が「こんなにも大きい絵だったとは」「この絵が飾られてあるドアを開けた瞬間に、目に飛び込んできた『秋田の行事』の迫力に感動しました」でした。本物に触れる喜び、驚き、このことが生徒の感性をさらに豊かにしたことと思います。

帰校してからは、感想のまとめやこれから受験勉強をさらに進めていくわけですが、自分の目標をさらに明らかにして、日々の生活に生かして欲しいものです。

## 2年生 修学旅行を終えて

### ◇第一日目(11月17日)

朝8時角館駅集合。小雨降る中、大きな荷物をトラックに入れて、全員ホームで出発式。

出発式が終わって、予定時刻よりも7分遅れましたが、参加予定者全員が無事に東京へ出発しました。

浅草寺で集合写真を撮影しました。

その後、浅草を観光、その後、コース別観劇となりました。「スーパー歌舞伎」を見た人からは、「圧倒された」という感想がありました。3つの観劇が終わってホテルに到着したのは、かなり遅い時間となりました。東京はいつでも混雑していることを知りました。

### ◇第二日目(11月18日)

この日は、専門学校訪問でした。訪問を無事に



終えて、班別活動で次の場所に移動です。



班別活動が終わって、いよいよメインのディズニーリゾートへ到着しました。あいにくの雨でしたが、皆さん元気いっぱいでした。



ディズニーリゾートが終わってホテルに到着したのは、9時半頃でした。

### ◇第三日目(11月19日)

朝7時前に出発した2年D組。朝食は築地で取りました。他の組はスカイツリーに行きました。

クラス別研修を終えて、上野に集合しジャイアントパンダに迎えられ、駅構内で最後の説明を聞きました。それから、無事に帰りの新幹線に乗りました。

角館駅に定時に到着し、解団式を行いました。

3日間の東京の旅、2年生の皆さん、お疲れ様でした。



## 河正雄(ハ・ジョンウン)さんのお話

仙北市教育委員長の安部哲男氏から、小中学生の友人である在日韓国人の河正雄さんに関するお手紙をいただきました。紹介いたします。

にっぽん人情小噺 落語家 三遊亭鳳豊(さんゆうてい・ほうほう)  
月刊MOKU11月号掲載 第118話

この年齢になりますと、宴会で乾杯の音頭をとることが多くなりますね。

そんな時、私は、時々、こんなことを言って、集まった人たちを困らせているんです。

「アンニョンハセヨ。じゃ、乾杯しますよ。どうせなら、今日は韓国語でお願いします。乾杯は韓国の言葉で、ノミホセヨーですね。はい！ノミホセヨー！」

すると、決まって、ひと口飲んだ人たちの間から「へえ、韓国語で乾杯はノミホセヨーっていうんだ」なんて声が聞こえてきますと、思わず笑っちゃいます。ウソに決まってるじゃないですかねえ。

今日は、秋田県仙北市の教育委員長の安部哲男さんから、直接うかがった話を小噺ふうにご紹介しますね。

あれは、もう四年ほど前のことでした。仙北市の美術館で「河正雄(ハ・ジョンウン)コレクション『故郷展』」という会が開催されました。

そのオープニングパーティの出席者百五十人の中心に、河さんがいました。河さんがこれまでに収集した韓国人画家の作品を中心とした展覧会です。河さんは晴れ晴れとした顔をしています。安部さんは、その横顔を見ながら、深い感慨に浸っていたそうです。

河正雄さんは昭和十四年、大阪生まれ。その名の通り、在日二世です。お父さんが田沢湖のダムや水力発電所の建設工事の労働者として働いていた関係で、昭和二十三年九月に東大阪の小学校から秋田県の生保内小学校に転校してきたようです。

その時、安部さんと当時、河本と言っていた河さんは、同級生になりました。安部さんは、その時の様子をこう書いています。

「実は、彼は私たちと遊べるような状況ではなかったのである。学校にくる時はかならず幼い弟を連れて来なければならず、いつも子守をしながら勉強をしていた。クラスの大部分は、どうしてぎやーぎやーうるさい弟を学校に連れて来るんだと思っていて、彼の弟が泣き出すとみんな『またか』という顔で彼を見た。そうすると彼は、さっと弟を廊下に連れ出して、泣き止むまで教室に戻ってこなかった」

河さんは、五人兄妹の長男。戦争直後の在日韓国人の多くがそうであったように、家が貧しくて、お母さんも肉体労働をしたり、「かつぎ屋」として、東京に闇米を運んだりして生計を立てていたので、弟や妹の面倒は、河少年にまかされていたのです。

冬の秋田の掘立小屋のような家で朝五時に起き、炊事・洗濯を済ませて、毎日山道を歩いて働きに行くお母さんの姿を、河少年は、どんな気持ちで見ていたのでしょうか。

もちろん、安部少年は、そのことを後年、彼の口から聞くまでまったく知りませんでした。その頃の気持ちを安部さんは、正直に、こう綴っています。

「うるさい弟を連れて学校にくる彼を見てみると、なんとなくうとましく、変に立派ぶっているように見えたし、先生方にもほめられるし、私たちにとってはおもしろくない存在として、好ましい印象をもてなかったというのが正直なところであった」

実際、成績はよく、絵を描かせればいつも大会で入賞していました。中学に入って、彼の絵の才能を引き出してくれる教師に出会います。田口資生先生という美術の先生でした。先生は自宅を開放し、貧しい生徒には絵の具を分け与えるほどの情熱教師でした。

貧しい生活の中で、絵を描くという楽しみを見つけた彼は、母に画家になりたいと言いましたが、生活苦の家庭の長男が絵を描くことは許されません。やむをえず、高枚を出ると、埼玉県に出で、そこで働きはじめます。

やがて、始めた事業が大当たりして、大金を手にした彼は、そのお金で貧しい韓国人の画家の絵を次々と購入したのでした。自分が果たせなかった夢を、若い同胞の画家たちに託したと言ってもいいかもしれません。その数、数千点と言いますから、どれだけのお金を注ぎこんだのでしょうか。

河さんは、自分を育ててくれた秋田県に自分の資金で美術館を建て、その全作品を寄贈しよ

うと思ったのです。しかし、さまざまな事情で、それは実現せず、結局、父親の故郷である光州美術館をはじめとした、韓国の八つの美術館に寄贈したのです。

その話を知った安部さんは、河さんに電話を入れました。

「それは残念だなあ。せっかくのコレクションを僕たちの同級生や、僕たちが育った生保内の人たちに見せてあげたかったなあ。あの河本君のコレクションだよって」

河さんは安部さんの電話に心を打たれました。自分が貧しい在日韓国人の子供であってもまったく偏見をもつことなく、差別もいじめもなかった生保内小・中学校の同級生が「コレクションを見たいと言ってくれた!」。

河さんは思いました。「ありがとう。光州の美術館に送る分がまだ順番待ちで残っている。でも、いつまでも返事は待てない。それでよければそちらに送るよ。でも、展覧会をやるとお金がかかるよ。僕が出してもいいよ」。安部さんは、「まかせてくれ」とひと言、言って電話を切ると、仙北市の市役所を訪れ、教育長に。教育長は副市長に、そして副市長は市長にと話が伝わったのです。河さんの故郷への思いが伝わったのか、行政のトップの三人がなんと、予算を含めて、在日韓国人のコレクション開催にゴーサインを出したのでした。

それから、安部さんはじめスタッフは、目の回る忙しさだったそうです。そして、この日、オープンを迎えたのです。会場では、次々と挨拶が続きます。

安部さんは、かつて河さんが安部さんに言った言葉を思い出していました。

「安部君、僕はね、高校卒業まで、この秋田で一度たりとも、在日韓国人であるということ差別されたこともないよ。だから、僕はここが故郷なんだ」

安部さんは、思ったそうです。(ごめん。君にはかなわないと思った時に、僕は『在日のくせに』と何度もつぶやいたよ)

安部さんは、ふと、「河正雄コレクション『故郷展』の図録の河さんの挨拶文を読みました。そこには、こんな文章で結ばれていました。

「最後に、生保内小・中学校時代の学友安部哲男君に厚くお礼を申し上げます」

## ◎ 第50回 秋田県中学校秋季柔道大会

松本唯さん 個人優勝 (57kg級)

### ○ 決勝リーグ 4人(予選リーグシード)

松本さん(角館) ●—○伊藤さん(羽城)(延長で指導が入って負け)

松本さん(角館) ○—●成田さん(二ツ井) 1本勝ち

松本さん(角館) ○—●加賀谷さん(御野場) 1本勝ち  
2勝1敗で、内容で優勝となりました。

## ◎ 第5回 秋田県中学校新人駅伝競走大会

男子2位、女子5位 11月14日県営陸上競技場  
男子5チーム女子3チームが参加しました。

・男子

角館A 2位  
角館E 18位  
角館B 27位  
角館C 32位  
角館D 35位

・女子

角館A 5位  
角館B 23位  
角館C 24位

大健闘おめでとうございます。